

外国人のための無料相談 対面窓口を再開

外国人支援に取り組む「NPO 法人たちかわ多文化共生センター」(立川市)による対面での無料相談窓口が今月、約二カ月ぶりに再開した。コロナ禍の緊急事態宣言下では、ビデオ会議アプリ「Zoom」のみで対応していたが相談件数は減少。センターは情報発信の強化を検討している。

(佐々木香理)

Zoom相談件数1/3に

センターは二〇〇一年に発足。

毎週土曜、市女性総合センター・

アームで無料相談窓口を設け、英

たちかわ多文化共生センター

語や中国語などの通訳と専門家が相談に応じてきた。昨年からはコロナ禍を受けて予約制に変更し、感染対策としてZoomも導入したが、相談件数は減少。対面相談を中止していた今年八・九月は三件と、前年同期と比べて三分の一程度だったという。

活動の周知を兼ね、二日には立

川タクロスで同様の相談会を実施。多摩地域外も含めて約十件相談が寄せられ、ボランティア通訳と弁護士や税理士らが対応した。

内容ではビザ関係の相談が半数を占めたが、雇い止めや経済的不安

などコロナ禍の影響を受けた相談もあり、担当者が対応する関係機関を紹介した。

インターネットで相談会を知ったという三十代の外国人女性は、コロナ禍での精神的な悩みを相談。「自分の周りの人に知られずに個人的な悩みを話せて良かった」と話した。

センターの細江謨夫理事長は「相談窓口を必要とする人にとって」と話す。十一月にはホームページを刷新し、更新の頻度を高める予定だ。



相談に訪れた女性(手前右)に応じるセンター担当者ら
＝立川タクロスで